

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日:平成 31 年 3 月 4日

公表:平成31年 3月 13日

事業所名: 子ども支援室 えがお

		チェック項目	はいいいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4	運動などは 戸外プログラムを作っている。	限られた空間でできることを工夫。 空間構造環境の工夫
	2	職員の配置数は適切である	4		定員が5人なので1対1状況になる。職員が多いことで頼りすぎたりしないように配慮。(手を出しすぎず、子供の自発性をまつ)
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	3	1 2階であることは帰れないので、歩行と かに支援が必要なお子様には階段等 では補助を徹底している。室内はフラッ トにしている。	利用見学時等に構造を見ていただき承し ていただく。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目 標設定と振り返り)に、広く職員が参画して いる	3	1	時間の確保 朝の朝礼時に確認等はしているが常勤職員が 主になってしまう。非常勤の職員にも参加できる ように空き時間を上手く使っていく。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりア ンケート調査を実施して保護者等の意向等 を把握し、業務改善につなげている	3	1	保護者からの意見やアンケート回覧し 改善策をその都度考えている。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報や ホームページ等で公開している	2	2	ホームページを今回から作成した。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を 業務改善につなげている	2	2	第三者外部評価のシステムは使ってい ないので考えていく。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機 会を確保している	4		情報を提供している
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者 のニーズや課題を客観的に分析した上で、 放課後等デイサービス計画を作成している	4		アセスメントは行っている。高学年になるお子様 もいるので、本人が自分をどう見ているかも感じ ていきたい。 チェックしやすいアセスメントツールを考案してい く
	10	子どもの適応行動の状況を把握するため に、標準化されたアセスメントツールを使用 している	4		
	11	活動プログラムの立案をチームで行ってい る	4		職員で話し合い決めている。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫して いる	4		いろいろなプログラムを企画はしてい る。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ 細やかに設定して支援している	4		時間の余裕がある時のプログラムを企画
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活 動を適宜組み合わせて放課後等デイサービ ス計画を作成している	4		スペシャルタイムとして個別取り出し取 り組みをしている
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、 その日行われる支援の内容や役割分担に ついて確認している	4		
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、 その日行われた支援の振り返りを行い、 気付いた点等を共有している	3	1	記録用紙作成
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを 徹底し、支援の検証・改善につなげている	2	2	問題があったとき等になりがちではあ るが、記録に取することはしているが次に つなげる話し合いまで時間が取れない のが現状である。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デ イサービス計画の見直しの必要性を判断して いる	3	1	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み 合わせて支援を行っている	4		

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4		児童発達支援管理責任者が参加 他の職員も同行し対応できるように自己向上
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	4		送迎時先生と確認しあうことができている。学校ごとに送迎時間などのプリントをいただいている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	4		日常生活において医療的ケアが必要なお子様の利用はない。ペースメーカー、アレルギーのお子様に対しては保護者と確認をしている。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	4		
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	3	1	移行者はまだいないが提供をしていくようにする。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	3	1	小牧市のあさひ学園、保健センター学校教育課と連携はとっている。研修に参加をしている。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	4		児童館図書館には出かけてはいるが、交流までは至っていない。交流という目的での取り組みの場合は事前に打ち合わせ等をしていきたい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	3	1	子ども連絡会に参加をしている。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4		定期的に懇談を短時間でも持つ
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	3	1	研修受講 ペアレントトレーニングの研修を受講。準備がそろい次第企画していく。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4		加算など変更時も説明を行う。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4		困り感、不安、心配の強い相談等は懇談を随時行っているが、相談日を設け相談しやすいシステムを考えていく。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	1	3	保護者同士お迎え時に職員が入り話をしている。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	4		苦情が出ないように取り組む。迅速に対処報告。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	2	2	今後考えていきたい。フェイスブックは行っている。ホームページを始める。
	35	個人情報に十分注意している	4		見学者、ボランティアのモ周知する。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	4		相談員と連携し家族を支援
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	3	1	活動の取り組みでお店に買い物に行ったり協力していただいている 地域に積極的に出る。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	4		マニュアルの周知具体的にする。保護者を巻き込む避難訓練を企画
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	3	1	どの職員でも指示が出せるようにしていく。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4		事業所内での研修自己点検、全体での点検 ご家庭における子育ての不安や困り感を把握
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	4	今現在身体拘束を考えなくては行けない	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	3	1	保護者からの医師の話を伝達していただいている。エピペンの保管使用法もうかがっている。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	4		小さなことも記録する習慣